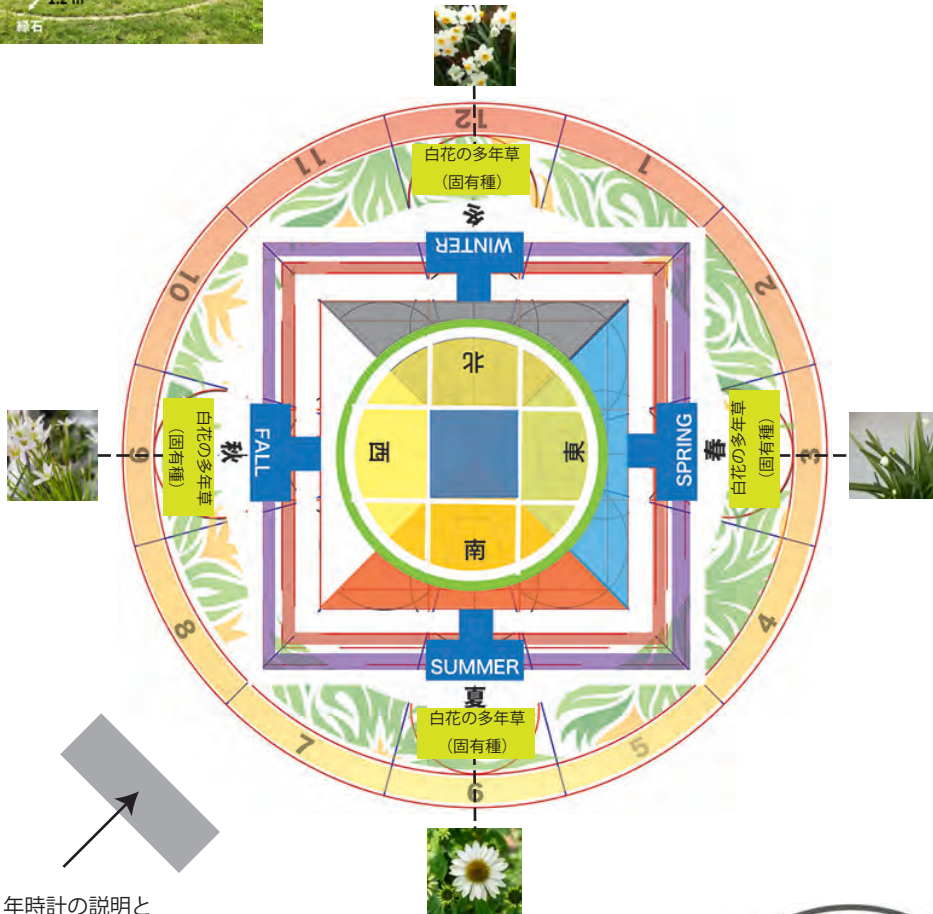
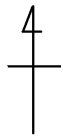
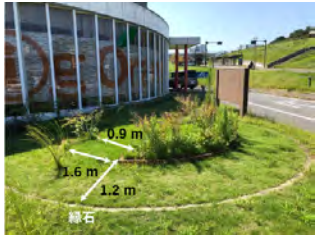


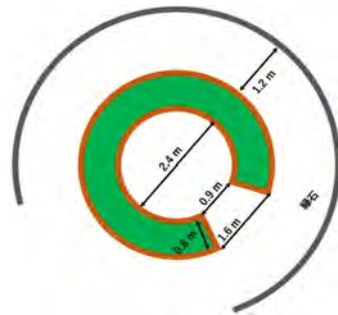
## 「植物の1年時計」プロジェクト



植物1年時計の説明と  
生物多様性ゾーンへの  
誘導 Map



チベット砂曼陀羅



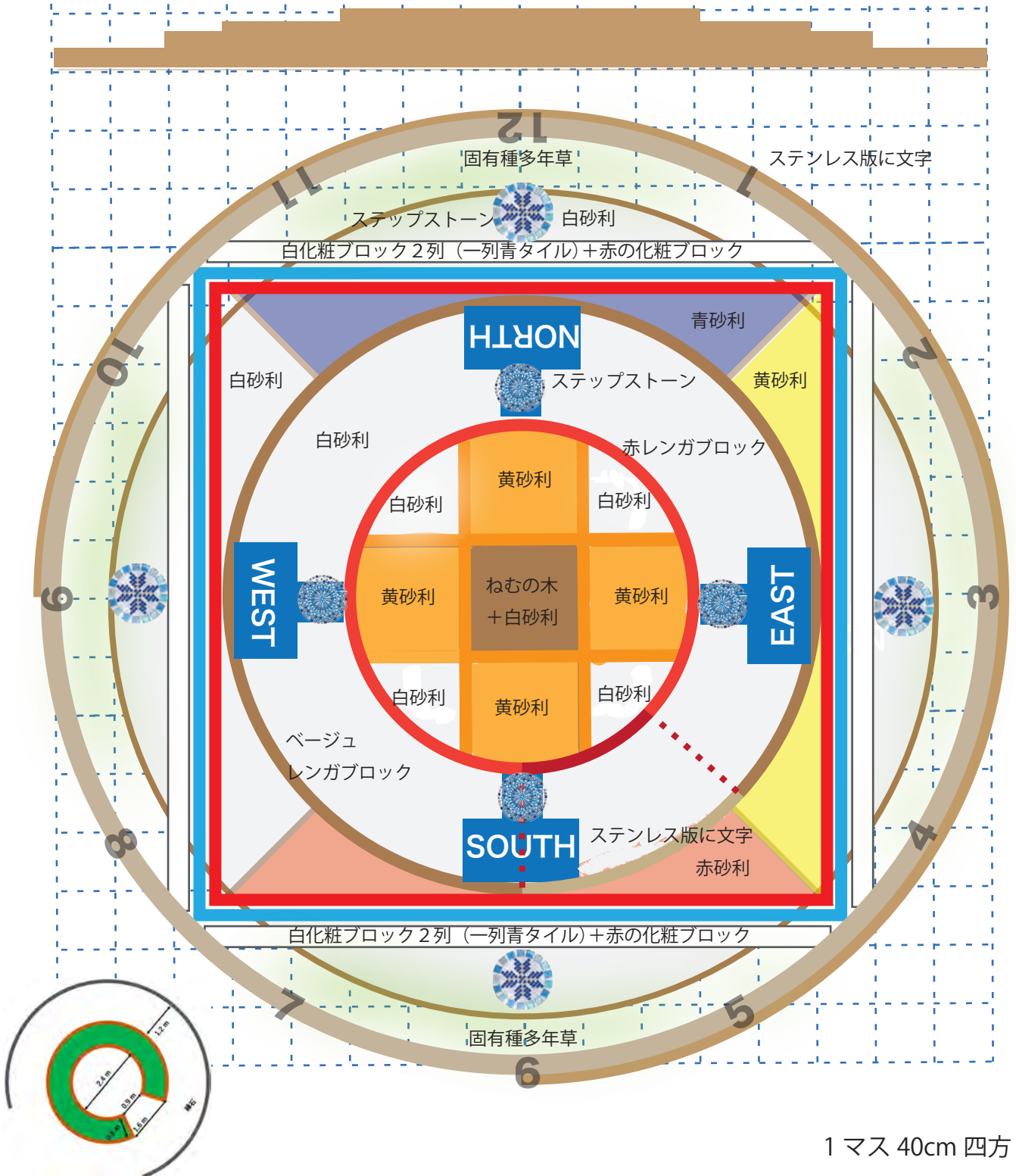
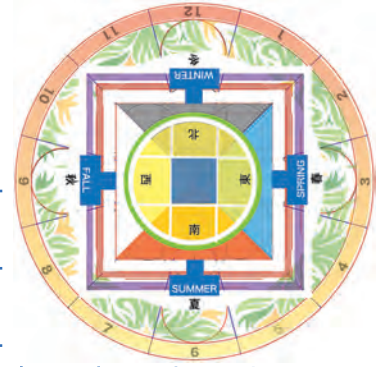
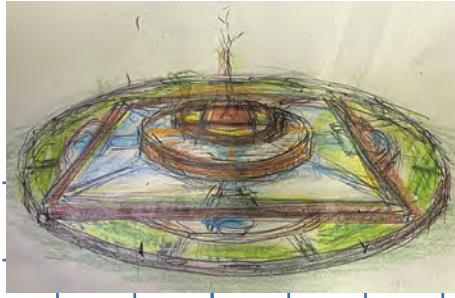
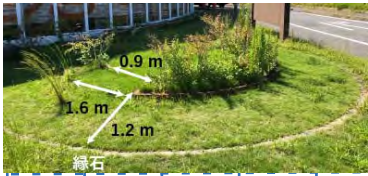
「植物の1年時計」は、1年の間に、月ごとに開花する多年草（固有種）が、円形に移動するようデザインされたアートガーデンである。自然の循環や、長いスパンの時間、未来への想像力を喚起する。また現在の植生を、将来世代に伝えるものである。

仏教の宇宙観を表現した曼陀羅をモデルにしている。アートガーデンの北を冬（12月）、春を東（3月）、夏を南（6月）、秋を西（9月）の方角に一致させる。日本の春分と秋分には、真東からの日の出と、真西への日の入りを観察できる。「天体（宇宙）や時間、自然、鑑賞者（自分）をつなぐ」1年時計である。

植物については、生物多様性ゾーンに自生している固有種を中心に植栽する。「生物多様性ゾーンの説明と案内」銘板を併せて設置し、生物多様性ゾーンへ人々を誘導する。

ガーデンの中央部分は釉薬がかかったレンガと白玉砂利を組み合わせ、円周部分に季節ごとに開花する草花を植栽する。植物の選定段階から、九州大学教員・学生や地域の方々が関わる共創プロジェクトである。

本企画は、2022年6月に伊都キャンパスで開催される Global Young Academy(GYA) 学会「感性と理性のリバランス：包括性と持続性に向けた科学の再生」にむけたアートプロジェクトである。設置場所は、伊都キャンパスビックオレンジ前を希望している。



1マス 40cm 四方

アートガーデン《植物の1年時計》

Art Garden; Seasonal Flowering Clock with 12 Months and 4 Directions

制作： 知足美加子(芸術工学研究院) Artist: Mikako Tomotari; Faculty of design

-----

(ナレーション)

自然の循環は、変化を繰り返しながら、その創造性と永遠性を失うことはありません。

「その美しさを感じる感性」と「その仕組みを理解する理性」を調和させ、

また可視化する方法 (Visual control) の一つが、アートです。

これは、植物が1年にわたり順に開花するようデザインされたアートガーデンです。

九州大学にある「生物多様性ゾーン」に自生する在来種を中心に植栽されています。

また、このガーデンには方角を明記し、

日の出入り、北極星の位置など、星々と自分のつながりを感じるように設計されています。

温暖で湿潤な日本には、四季おりおりに多様な植生が展開します。

古くより日本では、自然とアートを対立させず、

人間も自然の一部として、自然の中に美を見出してきました。

このアートガーデンの発案者 (である私) は、

九州大学の芸術学教員であり、彫刻家であり

自然を崇敬する修験者の子孫です。

このガーデンは、修験道の曼荼羅のオマージュです。

曼荼羅は、大いなる関係性の中で私たちが生かされていることを表現しています。

人々の心の中に、自然の循環や時間への想像力を喚起し、

現在の植生を将来世代に伝えるものです。

科学という真実が、多様な美のイメージとして共有され、

人々の心の中で「未来への想像力の起点」となるとき、

包括性と持続性に向けて科学は再生していくでしょう。

-----

(英語字幕)

The eternal cycles of nature, while changing, never lose their creativity.

Art is one way to harmonize and visualize the "sensitivity to feel beauty" and "science reveals its truth."

The plants of this art garden are designed to bloom in sequence over the course of a year.

They are intended to evoke our imagination about the cycles of nature and time, and to pass on the vegetation of the present to future generations.

The plants are native species to the biodiversity conservation zone.

The garden is also marked with north, east, west, and south, and is designed to help visitors feel a connection to the stars, the sunrise and sunset, and the position of Polaris.

Japan is a warm and humid country with diverse vegetation in each of the four seasons.

Since ancient times, Japanese people have always believed that nature and art should not be in conflict, but rather in harmony, and human beings, as part of nature, have beauty in nature.

I, the creator of this art garden, am a professor of art at Kyushu University, a sculptor, and a descendant of a nature-worshipping Buddhist monk of Shugendo.

This garden is a homage to the Shugendo mandala that expresses that we are all part of nature and this great relationship keeps us alive.

This art garden will evoke in people's minds an image of the cycles of nature and time, and is a way to pass on the vegetation of the present to future generations.

The truth of science is shared as images of diverse beauty and when it becomes "the starting point of imagination for the future" in people's minds, science will regenerate itself toward inclusiveness and sustainability.

----

(クレジット)

【協力】 Supported by

Global Young Academy

公益財団法人日本学術協力財団 原田弘二基金

Harada Koji Fund, Japan Science Support Foundation

九州大学 Kyushu University

【制作】 Artist

知足美加子 Mikako Tomotari

【実行委員】 Executive Committee

安田仁奈 Nina Yasuda

岸村顕広 Akihiro Kishimura

矢原徹一 Tetsukazu Yahara

【英語監修】 English Editorial Supervisor

Duncan Butland

【造園】 Landscape Architecture

宗像緑地建設 Munakata Ryokuchi Kensetsu Co.

【動画制作】 Video Production

九州大学知足研究室 Kyushu University Tomotari Laboratory